佐澤太郎編纂

修正尋常小學第三讀本

下卷

T1A3
10
(SA99)

佐澤太郎編纂　修正

尋常小學第三讀本

明治二十二年六月廿八日
文部省檢定濟

東京
文榮堂藏版

尋常小學第三讀本下卷

目次

第一　文字ノ音訓　一丁
第二　斗量　二丁
第三　鳴門　三丁
第四　朋友ノ交　三丁
第五　練兵　四丁
第六　分業　五丁
第七　道路里程　五丁
第八　天長節　六丁
第九　鎌倉江島　七丁
第十　動物植物　七丁
第十一　富士川ノ役　八丁
第十二　接木取木挿木　九丁
第十三　六大洲五大洋　十丁
第十四　友人ニ桃花ヲ贈ル文　十一丁
第十五　同返事　十二丁
第十六　冬ノ景色　十三丁
第十七　大日本國　十三丁
第十八　蝙蝠　十四丁

目次畢

第十九　キノ女　十五丁
第二十　風　十六丁
第二十一　行軍ノ歌　十七丁
第二十二　川中島ノ合戰　十八丁
第二十三　蠶　十九丁
第二十四　伊勢神宮　二十丁
第二十五　麥　二十一丁
第二十六　空氣　二十三丁
第二十七　市街村里　二十三丁
第二十八　鳩ノ話　二十四丁
第二十九　吉野山　二十五丁
第三十　茶　二十六丁
第三十一　商家　二十七丁
第三十二　大坂　二十八丁
第三十三　宇治川ノ役　二十九丁
第三十四　日本國名下　三十丁

訓
呼聲
意味譬

尋常小學第三讀本下卷

第一　文字ノ音訓

凡ソ文字ニ、漢字ト假名トノ別アリ

ニテ、漢字ニハ、音ト訓ト二樣ノ讀方アリ、音トハ、文字ノ呼聲ニテ、訓トハ、文字ノ意味ナリ、譬ヘバ、松ノ字ハ、音ハ「シヨウ」ニテ、訓ハ「マツ」ナリ、遊ノ字ハ、音ハ「イウ」ニテ、訓ハ「アソブ」ナリ、汝等、

試

試ミニ左ニ示ス所ノ、漢字ノ音ト訓トヲ言ヘ、

父　母　兄　弟　梅　花　枝

葉

又二字ニテ、一ツノ訓アルモノアリ、譬ヘバ、早稲、中稲、晩稲等ノ如シ、左ニ示スモノハ、皆二字ニテ、一ツノ訓ヲナス、汝等、其音ト訓トヲ言ヘ

解

酒、醤油、量、斗量、枡

紙鳶　獨樂　蜻蜓　蝙蝠

汝等ハ、本ヲ讀ムトキ、ヨク音ト訓トヲ心得ベシ、若シ之ヲ知ラザレバ、タトヒ讀ミ得ルトモ、其意味ヲ解スコト能ハザルベシ

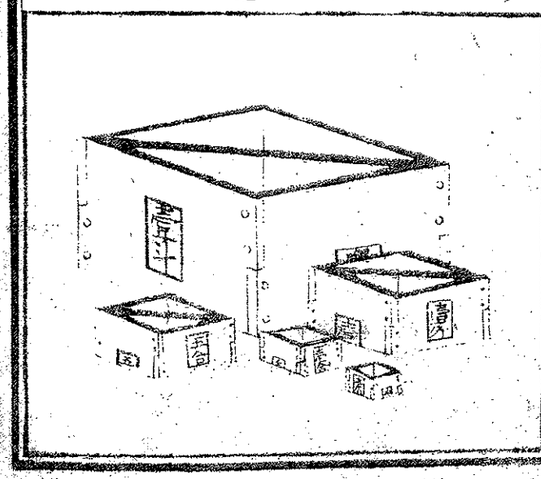
第二　斗量

酒、醤油、米麥などの類を量る器を、斗量といひ、又枡といふ、一合枡、五合枡

徑

一升枡、一斗枡等ノ類あり、枡ハ、木を以て作る、口の徑り二寸一分四方、深さ一寸四分七釐あるものを、一合枡といふ、十合を一升といひ、十升を一斗といひ、十斗を一石といふ、凡そ、商業をい

商業



となむには、信用を本とす、故ゆ、枡目を正しくするも、人の信用を得るの本と知るべし

第三　鳴門

鳴門

鳴門ハ、淡路ト阿波トノ間ナル、有名ノ海峽ニシテ、其徑リノ廣サ、大凡十潮勢、急激ハ町アリ、潮勢急激ニシテ、渦ヲ成ス、渦汐、緩急、潮汐ニ依リテ、渦ニ大小緩急アリ、小

誤、觸　舟、若シ誤リテ、其大渦ニ觸ルヽトキ

沉没、順逆、ハ、忽チ沉没ス、故ニ舟子ハ、潮汐ノ順逆ヲ察シテ後、航行スト云フ

察

第四　朋友の交

たのしきものは　良き友ぞ　あそぶにまさる　ものはなし　かたみにまゝろ　あひたひの　松のみぞ　りの　色かへぬ　まさとしなれば。

經　年經とも　いつもうつくし　いつもうつくし

練兵、喇叭　第五　練兵

汝ハ、練兵ヲ見タルコトアリヤ、喇叭手アリ、士官アリ、兵卒アリテ、甚ダ勇マシキモノナリ、凡テ兵士ハ、國ヲ守ルニ至要ニシテ、苟モ國アレバ、一日

至要、苟　欽

モ欽クベカラザルモノトス、若シ國

護　ニシテ、之ヲ護ルノ人ナキ時ハ、全國

營　ノ人ハ、片時モ心ヲ安ンジテ、業ヲ營

ムコトヲ得ザルベシ、故ニ、國民タル

齡、軍籍　者ハ、皆齡十七歲ニシテ、軍籍ニ入リ、

兵役、技術、二十年ニ至レバ、兵役ニ服シテ、技術

義勇、奮　ヲ練習シ、一旦事アル時ハ、義勇ヲ奮

皇威、輝　ヒ、國恩ニ報ヒ、皇威ヲ輝サンコトヲ

企圖　企圖スベシ、コレ國民タル者ノ、國ニ

對スル第一ノ務メ

ナリ

第六　分業

職業　人の職業ハ、分業と

いふことあり、譬へ

切、組　バ、家を造るにも、大

壁、塗　工ハ、材木を切り組

ミ、左官ハ、壁ヲ塗り、

据　石工ハ、石を据ゑ、又家根を葺くには、
瓦師　家根屋あり、瓦師あるが如し、何事に限らず、一事づゝ、分け持ちて爲るを、分業といふなり

第七　道路里程

國道縣道、道路ニハ、國道縣道里道ノ別アリ、凡里道里程ヲ量ルニハ、十ノ數ヲ以テ、位ヲ進メズシテ、六ノ數ヲ以テ、位ヲ進ムルナリ、曲尺六尺ヲ一間トイヒ、六十間ヲ一町トイヒ、三十六町ヲ一里トイフ、府縣廳アル所ノ地ニハ、里程府廳元標、設都ノ元標ヲ設ケ、又都會宿驛等ニモ、里會宿驛遠程標ノ設ケアリテ、里數ノ遠近ヲ知ルニ便ナリ

第八　天長節

天長節とは、我が

誕生祝日　今上天皇御誕生の御祝日なり、我等

飽　萬民の、暖に衣て、飽まで食ゝ、晝ハ安

安穩　穩に家業を營

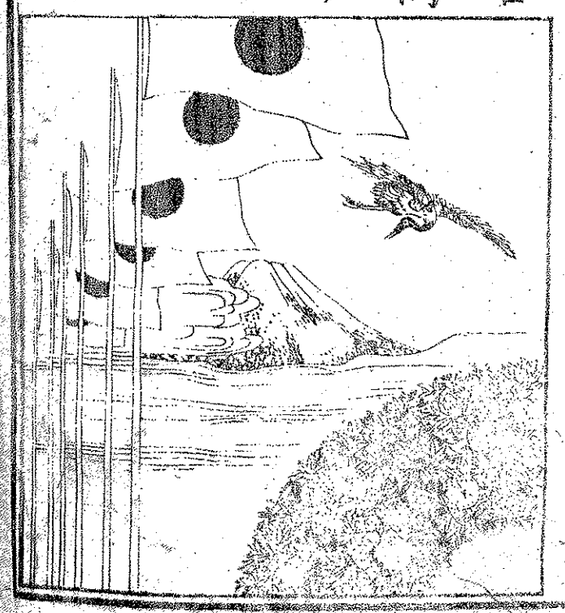
枕　ゝ、夜ハ枕を高

安眠　ふして、安眠す

ることを得る

は、皆

陛下　天皇陛下の御



恩澤　恩澤ふあらざるハなし、故に、我等臣

逢毎　民たる者ハ、此御祝日に逢ふ毎ゝ、職

掲　業を休ゝ、家々に國旗を掲げて、以て

聖壽祈奉　聖壽の萬々歲を祈り奉るなり

第九　鎌倉江島

鎌倉距　鎌倉ハ、今ヲ距ルコト、殆ド七百年前、

源頼朝覇　源頼朝ノ覇業ヲ開キシ跡ニシテ、鶴

業跡鶴岡　ケ岡八幡、建長寺等ノ遺跡、今尚存ス、

八幡、建長寺、遺跡、濱、沙路、道、達、辨財天、岩石、屹立、宜、名勝

蟲、貝

八幡、建長寺、遺跡、海濱ハ、由井濱ニシテ、風景最モ佳ナリ、又江島ハ、一條ノ沙路アリテ、陸地ニ通ズレバ、汐干ノ時ハ、歩行シテ達スベシ、島上ニハ、辨財天ノ社アリ、其海岸ハ、岩石屹立シテ、風景最モ宜シ、故ニ、鎌倉ト共ニ、名勝ノ地タリ

第十　動物、植物

人及び鳥獸、蟲、魚の類ハ、各身體を具へて、よく物を知り覺るの能あり、此中

胎生、卵生

には、胎生のものあり、卵生のものあり、何れも、自ら動きて、食を求め、害を避け、身を守るの働きあり、故に、總稱して動

避

働

總稱

菌苔

生殖幹

物といふ、草木菌苔の類ハ、皆種子又は根より生殖し、枝葉根幹を以て、自ら形體を成す、此等を總稱して、植物といふ

起清盛

第十一　富士川ノ役

昔、源頼朝、兵ヲ伊豆ニ起シ、平清盛ヲ擊タントシテ、京都ニ向ヘリ、清盛之ヲ聞キ、東海東山兩道ノ兵ヲ出シ、其

擊

維盛

富士川

夾陣水禽

驚惧

敗走

役

孫平維盛ヲ大將トシテ、頼朝ヲ擊タシム、維盛駿河ニ至リ、頼朝ト富士川ヲ夾ミテ陣ス、一夜水禽大ニ起ル、平氏ノ軍驚キ惧レ、源氏ノ大軍至ルトナシ、維盛遂ニ戰ハズシテ敗走セリ、之ヲ富士川ノ役ト云フ

第十二　接木取木、挿木

草木ハ、概ね其種子より生ずれども

接木、取木、挿木、蕃殖、發芽

亦接木、取木、挿木の三法を以て、蕃殖せるものなり、接木は、樹木の發芽せんとする前ふ、細き枝を切り取り、之を砧木、堅縛、接穗

を砧木ふ接ぎ、堅く縛り置き、時日を經れば、接穗より芽を生ずるなり、取撓

木とは、樹木の下枝を撓めて、其中央埋

を土中に埋め、又は箱などふ土を盛り、其枝の中程を埋めば、其土ふ埋もれたる處に根を生ず、此時之を幹より切り放ちて、移し植うるなり、放

又挿木とは、樹木の枝を切り、濕氣の枝を切り、濕氣

ある土中ふ挿し置くときは、根を

薔薇、柘榴、葡萄、施

生じ芽を發する者なり、柳薔薇柘榴、葡萄の類ハ、此法最も施し易し

第十三　六大洲、五大洋

亞細亞洲、歐羅巴亞、非利加亞、米利加南洋、印度南

地球上ノ陸地ヲ大別シテ、六大洲ト云フ、亞細亞洲、歐羅巴洲、亞非利加洲、北亞米利加洲、南亞米利加洲、及ビ南洋洲是ナリ、又大洋ヲ分チテ、五大洋ト云フ、太平洋、太西洋、印度洋、南氷洋、北氷洋コレナリ、我ガ日本國ハ、亞細亞洲ノ東部ニ位シテ、太平洋ノ北ニ在ル、獨立ノ帝國ナリ

氷

獨立

第十四　友人に桃花を贈る文

春風和らかふーて、日漸く長し、友吉は、讀書の後、獨り庭中を遊歩せーふ、桃花已に咲き初めたるを見、其友人好三を誘ひ來りて、相與ふ花を觀ん

漸

誘、與、觀

と思へども、他ふ、用事ありければ、自ら一枝を折り、手紙を添へて、持たせ遣したり

添
遣
相願
陰
勤学

笑、相
活覺
笑為不宜
玉机下

春雨秦賀彦相庭前の桃花咲き初め、彦作に付一枝活覺と入れ笑為を下度存不宜

月日

好三郎

玉机下

友吉

第十五　同返事

好三ハ、桃花ト手紙トヲ得テ、甚タ友

厚意　吉ノ厚意ヲ喜ビ、乃チ返事ヲ書キテ、使ノ者ニ與ヘタリ

慇懃　懇ろ

系上　手紙持ち使ひ

返事　返事

概略　概略

事柄　事柄

先ヲ　先を

追而　追而

月日　　姫子様

友吉様

哩安　第十六　冬ハ景色

冬乃寒ゴノ免モ　さびしをく　森ハ

木の葉モ　ちわほくし　小川乃水

モ　おわめやぢ　見ルもハ絶えて

おこのり事わ　時ヲ降りをる　白雪

をちらくくを　散めしハて　何

れしほごきホ　玉ハかを　梅桃櫻

櫻

松杉も　一ほゝ開く　春は花よ
志乃ゝ奥のと　あるまゝに　世を
おしふるまて　志ゆかしきの　色よか
ゝめて　今はをしゝ

第十七　大日本帝國

大八洲　我が國ハ、昔、大八洲の國と稱せ、土地
肥饒登　肥饒ふして、穀物よく登る、故ふ又瑞
瑞穗　穗の國の名あり、神代の始めよ當り、

伊弉諾尊、伊弉冊尊、天津神、詔

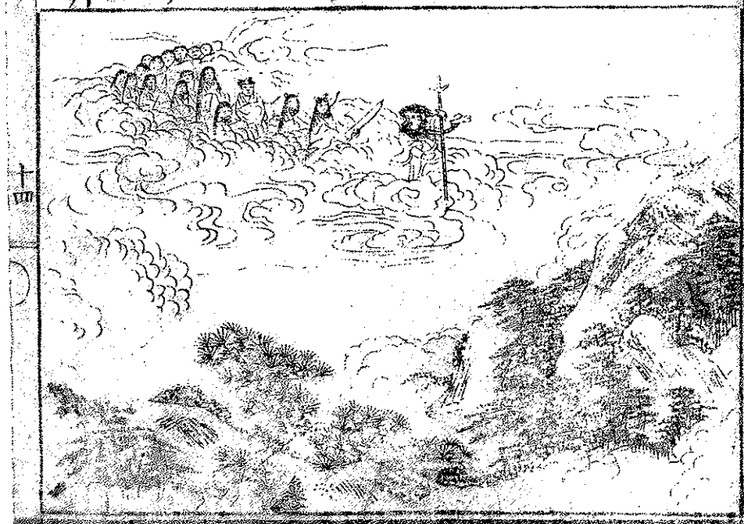
伊弉諾尊伊弉冊尊の二柱の神、天津神の詔を受けて、此國を造りた

大國主神、少彦名神

まひ、大國主神少彦名神、之を治めて、國遂ふ成れり、

天照大神、

天照大神ハ、伊弉



瓊々杵尊、諾尊伊弉冊尊の子なり、其孫瓊々杵尊ハ、三種の神器を賜ひて宣ハく、此國ハ、我が子孫の君たるべき地なりと、此土ハ降し、万民を治めしめたまへり、是我が國を建つるの始めなり、是より四世の後を、神武天皇とを、れ人皇の初めなり

賜、宣

第十八　蝙蝠

蝙蝠、軒

日暮、餌

前肢

翼

蝙蝠ハ、軒下又ハ壁ノ間ナドニ棲ミ、日暮ニ至レバ、出デヽ、小蟲ヲ餌トス、蝙蝠ハ、鳥類ニアラザレドモ、前肢ト後肢トノ間ニ、翼ニ似タル者アリテ、能ク飛ブ、又其爪ハ、曲レルガ故ニ、此爪ニテ、木ノ枝ナドニカヽルコトヲ得ルナリ、山谷又島等ニハ、其大サ、猫ニ比スベキ者アリテ、晝ハ岩石ノ間

枯木、節穴

又枯木ノ節穴等ニ棲ミ、夜間出デ、餌ヲ求ムト云フ

第十九　きの女

きの女ハ、近江犬上郡の人にして、作次の娘なり、家貧しければ、餅團子を賣り、又苧を績ミて、僅に其日を送れり、父早く没して、母も亦病みけるが、或る時、きの女に向ひ、父の借財を償

娘、貧、餅、團子、賣、苧、績

借財、償

はずして、今死せるハ、甚だ残念なり、とて、頻に悲みけり、きの女、之を聞き、其心を慰め、殊に心を盡して、看護しけれども、母遂に死せり、是ハ於て、きの女、祭事を怠らず、且つ、妹二人を愛恤し、一家三人、深く身を慎ミ、日夜勤勉して、遂に、父の借財を償ひたりとぞ、きの女の如きハ、よく生に仕へ、又

残念

頻、悲

慰、看護

祭事

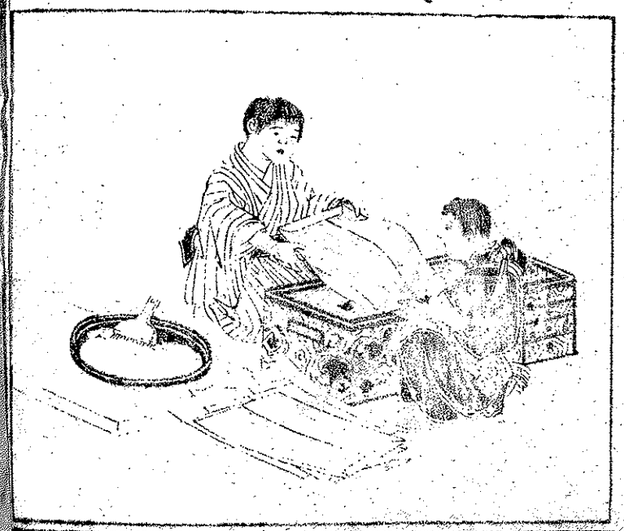
愛恤

よく死に仕ふる者、と言ふべし

第二十　風

厚、袋
封

厚キ紙ニテ袋ヲ製シ、其口ヲ封ジ、火ノ上ニカザストキハ、其袋漸ク膨脹ス、再ビ之ヲ冷ナル所ニ置ケ



膨脹

縮

輕

濃

バ、復漸ク縮ミテ元ノ如クニナル、コレ、袋ノ中ニアル空氣ノ、火熱ヲ受ケテ膨脹スレバナリ、風モ亦此理ニ外ナラズ、夫地上ノ熱ハ、各處同ジカラズ、故ニ一處熱スル時ハ、其地ノ空氣ハ、膨脹シ、輕クナリテ高ク上ル、此時、冷ニシテ濃キ空氣ハ、其上リタル空氣ノ跡ヲ充テントシ、他處ヨリ此處

二向ヒテ、流レ動ク、コレ即チ風ナリ

第二十一　行軍の歌

我ゞ日本は國體て　故は神代の頃
よりも　神乃御國と稱へきく　五
百海坂隔てたる　遠は戎夷ゞ國ま
でも　光輝く旭子は　射すや草葉
の露程も　侮り受けし例だに　類
も少かき緒環の　盡はぬ皇帝の功

稱
戎夷
旭子、射
露侮、例
緒環

功績、職務、
甘美、訓戒、
銘肝、束
拔擢、仁恵
冠蹶躋

績は　守るも誰は職務ぞや　誠實
なる身を甘美ふも　五はの訓戒銘
肝して　束乃あひ多も忘るなよ
多衆かる人の其中ま　君ゞ御楯と
拔擢きく　厚は仁恵い駿河なる
不二は高峰も尚ほ低く　伊勢の海
もら尚ほ淺し　其皇ま若しや又
冠蹶躋す戎夷ありもせで　躋ふ事

を亦如也　討ち夷げて大君の
御心慰め奉れ

第二十二　川中島ノ合戰

信玄、謙信

武田信玄、上杉謙信ト、川中島ニ戰ヒシガ、信玄、勝ニ乘ジテ謙信ヲ追フ、既

宇佐美定行

ニシテ謙信ノ將宇佐美定行ナル者、

横合、衝

横合ヨリ來リテ、信玄ノ軍ヲ衝ク、信

御幣川、濟

玄利アラズシテ、御幣河ヲ濟リ退ク、

麾下、薄

其時、謙信只一騎引返シ來リテ、信玄

ノ麾下ニ薄リ、太刀ヲ拔キテ、信玄ヲ

斫

斫ル、信玄打ギ戰ヒ、傷ヲ被リテ逃レ

信繁

走ル、信玄ノ弟武田信繁、後軍ニ在リ、

危急、馳

兄ノ危急ヲ聞キ、七十騎ヲ以テ馳セ

着キ、河ヲ隔テ、謙信ヲ望ミ見テ、大

ニ呼ハリ、戰ヲ求ム、信繁遂ニ戰死シ、

信玄免ルヽコトヲ得タリ、

第二十三　蠶

蠶、蠕蟲、桑蠶ハ蠕蟲にして、桑の葉を食ふ、四眠四起の後、藁等を箱の類に置き、ふれよ入るれば、口より糸を吐き、楕圓形のものを作りて、身を裹み、動かざ食はずして、數日よ及ぶ、之を蛹と云ふ、足ふくして、兩つの目あり、蛹を裹む物を、繭と云ふ、此繭を煮て取りたる

楕圓
裹
蛹
繭煮

者を、生糸といふ、蛹の繭を破りて出づるを、蠶蛾といふ、蠶蛾ハ、蝶の類よして、全身白色ふり、四つの粉翅あれども、飛ぶこと能ハぞ、紙面

蠶卵紙

翌年

ま、卵を產ミつく、之を蠶卵紙といふ、蠶の、翌年孵るをまちて、之を飼ふを養蠶と云ふ、

第二十四　伊勢神宮

度會

伊勢度會郡五十鈴川ノ川上ニテ、杉ノ古木ノ間ナル、清潔ノ宮殿ハ、我ガ

皇祖

皇祖天照大神ノ宮ニテ、內宮ト稱ス、

垂仁

往古ヨリ、大和ニアリシヲ、垂仁天皇ノ時コヽニ遷シタルナリ

遷

鎮坐、豐受

又山田ノ原ニ、鎮坐セルハ、豐受大神ノ宮ニテ、外宮ト稱ス、又五十鈴川ノ流レテ海ニ入ル處ニ、高ク聳エタル岩、二ツアリテ、七五三繩ヲ張レリ、爰ヲ二見ノ浦ト云フ、此浦ヨリ海ヲ隔テ、遙ニ富士山ヲ望メバ、風景殊ニ佳ナリ

聳

繩張

浦

第二十五　麥

穀類中、米に次ぎて、大切なるものは、麥なり、麥ふ、大麥、小麥、裸麥等の類にあり、大麥は、土地の寒、熱に拘らずして、よく登る、秋、種子を下し、翌年の夏ふ至りて、成熟せ、炊ぎて飯とし、又麥

裸麥
拘
炊飯
飴、麴、味噌

酒を造り、飴を製し、麴とかして、味噌、其他作る等其効用甚だ多し、小麥も亦

麵包、溫飩、索麵
播種

麵等を製し、又醬油を作るべし、之を播種せるにた、大麥より稍早きを、よしとせ、裸麥は、其質大抵大麥に同じ、但し、小麥の耐ふるたと能はざる、寒

地にも、亦よく成熟す、凡て麥類を、深く種うる伐よしとに、然らざれば、風雨の爲めに、害せらるゝこゝあり、苗の時に、之を蹈こつけ、且つ屢鍬を入れて、雜草を除くべし、歐羅巴亞米利加の諸國は、特に麥を重んじて、常食に欠くべからざるものとに、故に、海外各國ともに、之を栽培せざる所か

蹈

特

栽培

し

第二十六　空氣

周圍、充滿

空氣は、地球の周圍に充滿する者にシテ、萬物コレに因りテ、生育セザルハナシ、空氣は、色モナク、臭モナシト雖モ、扇ヲ動カセバ風ヲ生ジ、疾く走レバ、面に觸ルゝモノアリ、是即チ空氣の充滿セル証ナリ、地上、若シ空氣

臭

扇、疾

ナケレバ、諸生物、トシテ生存スルヲ得ザルコト、猶魚類ノ、水ナクシテ生活スベカラザルガゴトシ

生活

第二十七　市街村里

市街工、商

村里

市街ハ、工、商ノ家多ク、村里ニハ農家多シ、農家ハ、田畑多キ地ニアラザレバ、其業をかさに便ならず、工、商ハ、人家多キ市街ニアラざれば、其業をかさに利あらず、河海の濱には、漁人あり、山谷の間ニは、獵人あり、樵夫あり、漁人ハ、魚を捕ることを業とし、獵人ハ、鳥獸を狩り、樵夫ハ、木を伐り、薪を採ることを業とし

獵人、樵夫

狩、伐薪

第二十八　鳩ノ話

鳩

一農夫アリ、日頃、鳩ヲ愛シ、常ニ穀物ナド、多ク與ヘテ、飼ヒケルニ、鳩ハ、我

益

ガ家ニ居ルコトヲ好マズ、朝ニ飛ビ出デタルマヽ、夕ニ至ラザレバ、歸ルコトナシ、サレドモ、更ニ意トセズシテ、益愛シ養ヒシガ、或ル日、作物ヲ見ントテ、畑

足跡

蒔

荒怒

鐵砲携物

蔭隱暫

ニ出デ行キシニ、畑ハ、鳥ノ足跡ノミニテ、蒔キタル麥種ハ、半バ既ニ食ヒ荒ラサレタリ、農夫之ヲ見テ、大ニ怒リ、翌日、朝早ク起キ、鐵砲ヲ携ヘテ畑ニ行キ、物蔭ニ隱レテ窺ヒシニ、暫クアリテ、多クノ鳩群リ來リ、尚畑ニ殘レル麥種ヲ、食ハントセリ、農夫乃チ鐵砲ヲ放チテ、一羽ヲ打チ留メ、近ヅ

惡報

擇

吉野

キテ見レバ、我ガ飼鳩ナリシト云フ、此鳩ハ何故ニ斯ク哀レナル死ニ至リシヤ、是飼主ノ恩ヲ忘レテ、惡シキ友ト交リシ惡報ナリ、故ニ人モ、亦友ヲ擇ブコトヲ心掛クベシ

第二十九　吉野山

大和金峯山の麓より、吉野川の南岸小沿ひたる地を、凡て吉野山と稱ス、

南朝、行在所、後醍醐、如意輪堂、護良親王、城趾、義光、戰死

滿山皆櫻樹なれば、花時の風景最も佳なり、世ニ、一目千本と云ふ、此地を南朝三帝五十七年の行在所おりしところ、後醍醐天皇の山陵及び吉水院如意輪堂等あり、又長峰まい、護良親王の城趾、村上義光父子戰死の跡、今尚存せり

第三十　茶

繁茂
微
帶
摘

茶ハ、我ガ國ノ名產ナリ、之ヲ植ウルニハ、赤土ニシテ砂石ノ交リタル地ヲヨシトス、十一月ノ頃ニ、種子ヲ下セバ、凡ソ七十日ニシテ生ジ、三四年ニシテ繁茂ス、花モ葉モ、「さざんくわ」ニ似テ小サク、花ハ、白色ニシテ微シク黃ヲ帶ビ、秋ノ末ニ咲キテ實ヲ結ブ、葉ハ、大抵五月ノ初メヨリ摘ミ採

飲料

ル、始メ採リタル新葉ヲ、一番芽トイヒ、次第ニ、二番芽、三番芽ニ至ル、日々飲料ニ用フル茶ハ、此葉ヲ製シタルモノナリ、其味、甘美ニシテ、

香氣

且ツ香氣アリ、近年ハ、製茶ノ業大ニ開ケ、國内處トシテ、コレヲ植ヱザルハナシ、サレドモ、山城ノ宇治、近江ノ信樂ヨリ産スル者、其名最モ高シ

宇治
信樂

第三十一　商家

問屋、仲買、商家に、三つの種類あり、問屋、仲買、小賣といふ、問屋ハ、農夫、職人などの作りたる品を、買ひ取り、我が藏に積み

藏積

御

置きて、仲買又ハ小賣商人に卸す、仲買ハ、問屋の荷物を買ひ受けて、小賣商人に賣る、小賣商ハ、問屋又ハ仲買より、品物を買ひ取りて、之を小賣にするを業とす、問屋の中にて、取引の大なるハ、米穀太物、酒、材木などの問屋あり、又開港場にハ、賣込、引取の問屋あり、賣込とは、我が生糸、蠶卵紙、茶

太物
開港場賣込引取

金巾

の類を、外國商人ハ、賣り込むものゝ
て、引取とは、木綿金巾、砂糖、鐵の類を、
彼より買ひ取るものゝ

第三十二　大坂

浪速、仁德、豐臣秀吉、修築、鎮臺

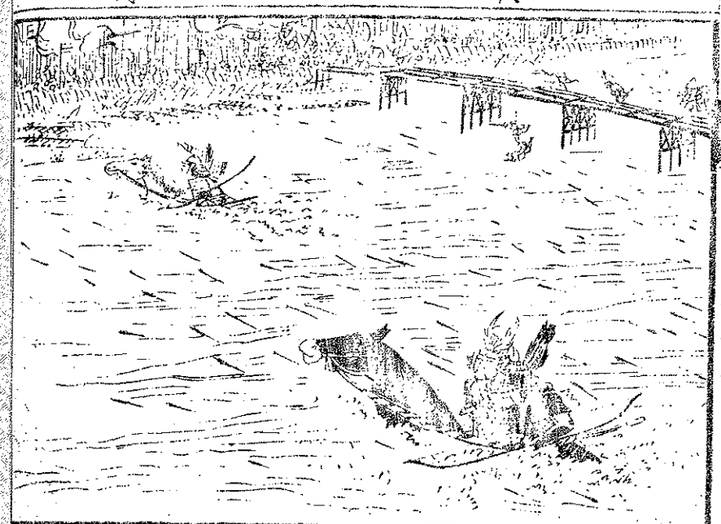
大坂ハ、三府ノ一ニシテ、古、浪速ト稱
ヘ、仁德天皇ノ都セラレシ地ニテ、豐
臣秀吉ノ修メ築キタル城趾アリ、今
ノ鎮臺ノアル處ナリ、市街ハ、淀川ノ

流、縱横、溝渠、橋梁、運輸、要路、賣買、繁華、富商、讓

流ニ沿ヒテ、縱横ニ溝渠ヲ通ジ、之ニ
架スル橋梁モ、亦其數少カラズ、運輸
極メテ便ナリ、加フルニ、西南諸道ノ
要路ニ當ルヲ以テ、港内ニハ、船舶常
ニ輻輳シ、諸物品ノ賣買、最モ盛ナリ、
市街ノ繁華、富商ノ多キ、東京ニ讓ラ
ザルベシ

第三十三　宇治川ノ役

範頼
義經
木曾義仲、
討、勢多
高綱
梶原景季



源頼朝、二弟範頼、義經を遣して、木曾義仲を討たしむ、範頼は、勢多に向ひ、義經は、宇治に向ふ、佐々木高綱、梶原景季、各頼朝、賜ふ所の名馬に跨り、爭ひて宇治川を濟る、高綱、先登の第一となり、景季之に次ぐ、全軍遂に濟りて、義仲の軍を擊ち破る、範頼も亦勢多を破りて、義仲を粟津に圍む、義仲遂に戰死せ、之を宇治川の役と云ふ

跨
先登
粟津

第三十四　日本國名下

北陸道々北海岸　若狹越前加賀能

海岸

續

脊中、位置

登より　海より出でゝ越中國　越後は國を大國ふく　黄金乃出ぢる佐渡ゝの島　合をて七ケ國やかを山陽道を播磨るめ　美作備前備中に　備後安藝をわ周防まく　南り海城受ゝ國　續を長門を西はを て　八ケ國と我をわふ　山陰八國山陽と　脊中合を乃位置を占

免　丹波を過ぎて丹後をわ　北は海邊ふはゞを國　但馬因幡伯耆より　出雲石見ふ隱岐乃島

其二

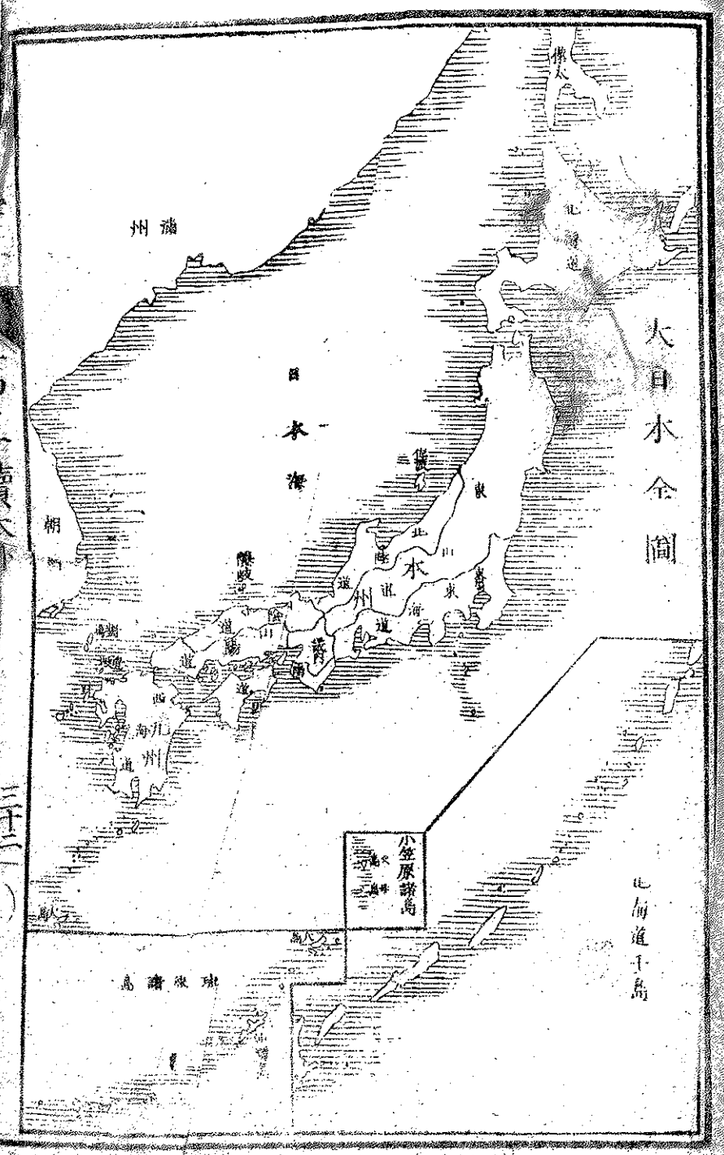
南海道は六國を　紀伊の一國畿内ふはを　淡路の島を海乃中　殘ふ四國は阿波、讃岐　伊豫土佐一つの島かれぞ　世よを四國や稱へゝる

沖

華族

朝鮮

其西方ニ横ヘタル　西海道の十二國　筑前筑後豊前豊後　肥前肥後とり日向ハ國　大隅薩摩ハ沖遠く沖繩島を連ねり　昔ハ琉球王國ヒて　我ガ日本ニ屬せしの　其王華族ヒなりしより　沖繩縣を立てゝ　華族　それらの近き壹岐、對馬　對馬ハ先ヒ朝鮮ニて　此島こそは我



この國は　西乃をとを知られあり。

尋常小學第三讀本　下卷終

明治二十一年六月廿六日　印刷
同　年七月二日修正出版　賣捌所
同　十九年十一月九日版權免許

編輯者　佐澤太郎　黄島縣士族　東京本郷區駒込西片町一番地
發行者　關谷末松　茨城縣士族　東京府平民　東京日本橋區本石町二丁目九番地
印刷者　江川八左衛門　東京神田區鍛冶町四番地
賣捌所　文榮堂　東京日本橋區本石町二丁目九番地
大賣捌所　星文館　福岡縣福岡區下名島町

明治二十一年六月廿八日
文部省檢定濟

図書 和図書 備
a1111035112a
福岡教育大学蔵書